

巻 頭 言

編集委員長2ヶ年を了えて

友 田 宜 孝

本誌も誕生してから5年にもなろうとしている。その間にいろいろの変遷はあったにせよ、とにかく発行を継続することができているのは大いに慶賀してよいことのように思われる。現在の本誌の性格や使命は最初の頃よりはだいぶ変わって来ているが、本誌が生研の発行ということになってからはそれが非常にはっきりして来て、いろいろなモヤモヤがとれてすっきりしたような感じがする。元来雑誌を出すという事はずいぶんむづかしいことである。社会環境に順応しながら、しかもこれを指導し主張を示さねばならない。若しその雑誌が営利をも願うものであれば一層困難なことであつて、到底われら学究の徒がなし得るわざでは無いであろう。特に本誌のような種々の部門を含む雑誌はなかなか焦点が合わないものであつて、有っても無くてもよいような雑誌になり勝ちである。にも拘らずわれわれは何とかして意義のある雑誌にしようとな願ひ努力して来たのである。この努力があつてこそ多少なりとも世間に関心を持たれ、存在が認められて来たわけなのである。

さて本誌の将来は如何にあるべきかという問題であるが、これは新委員長統率の下に委員諸君や編集室一同が最善をつくされることによって解決されるであろう。解決といつてもそれは固定的一義的の解決では無いであろう。恐らくは時代に順応し、社会の要求に答へ、われらの主張に即して変化して行くところの解決策であろう。新しい解決を得るためには過去を顧み、多くの人々の意見を聞くことも必要であろう。

現在の本誌はその目的が生研の研究活動を広く世に紹介してその研究成果を大いに活用して貰うことにあると思う。又所内の研究者達が互に他の研究を理解し合い、協同研究や総合研究が促進されるような触媒となることも本誌の役目の一つのように思われる。このような主旨で編集を行うにはどうしたら最も効果的であろうか。それにはいろいろやり方が考えられるけれども結局は編集委員の努力がなければ良い雑誌にはならないであろう。別の考え方としては編集の内規のようなものを細かく定めておいて、万専機械的に編集を行い、原稿は自然に集まってくるように仕組んでおけばよいという考えもあるが、それは願わしいことであるかも知れないが、実際には程遠い考えであろう。雑誌というものはやはり一冊一冊骨を折つて苦しみながら造つて行くものでなければ生命が無いような気がする。血の通つた雑誌でなければなかなか人に愛せられ読んで貰うことはむづかしいであろう。

次に内容のことであるが、それは必ずしも一定の型にはまったものである必要は無いと思う。紙数の限られた小雑誌ではあるが、いろいろな分野の人々に読んで貰う雑誌であるから、内容もいろいろに変えて種々の方面の要求に応ずるようにしなければならないと思う。若しできることならば雑誌のすみずみまでむしゃぶり読むというようなものにしたと思う。生研のような専門分野が広範囲に亘つているところでは1冊の雑誌に常に全部の部門が均一に盛られるようにするのは困難なことである。また仮りにそれができたとしてもそれで果していかどうかは疑問である。例えば或る特定の部門が必ず毎月掲載されているとしてもそれはほんの1篇ずつに過ぎないからほとんど何にもならないに等しいという考えもある。それよりはたとえ年に1回でもよいから特定部門だけの内容を盛つた雑誌が欲しいという強い意見もある。これは至極もつともなことではあるが、その方針だけで編集を行うと、年に1冊だけは読める雑誌があるけれど、その他は無用のように投げ捨てられる心配がある。その意味では1冊の雑誌にいろいろの部門が載っているのが良いこともある。要するに雑誌の編集はいろいろに変化するのがよいと思う。

以上思ひつきを書きつらねたが、今後本誌がますます価値あるものとなるように折つてやまない次第である。

第5巻

生産研究6月号目次

第6号

表紙 シリコン・クリドノグラフの正像；現像しないで簡易に電圧値に応じた図形が現われる(11頁参照)

巻 頭 言

編集委員長2ヶ年を了えて……………友田 宜孝…1

研究解説

自動制御の研究について……………高橋 安人…2

生産技術研究所における水晶共……………高木 康男…7

振子研究の現状……………高木 昇…7

シリコン・クリドノグラフ……………尾上 守夫…7

……………藤高 周平…11

……………藤田 良雄…11

半剛節継手とクリップアングル……………久保慶三郎…15

研究速報

高温時における鑄鉄のヤング率の測定……………川崎 寛司…18

振動容量型電位計の電極面の汚れに基づく誤差について……………小川 岩雄…19

金属面接着状況の超音波による検査……………丹羽 登…20

……………佐下橋市太郎…20

多段流体変速機の性能計算法について……………石原 智男…21

……………佐治 泰次…22

IIS NEWS

円錐形殻構造の設計……………23

研究所長一行見学のため来所さる……………23

部外活動、筆者紹介……………24